

十神山



# 会報 安来節

YASU GI BUSHI

発行所 安来節保存会

〒692-0064  
島根県安来市古川町534  
TEL 0854-28-9988  
FAX 0854-28-9393  
https://www.y-hozon.com/  
E-mail:admin@y-hozon.com

## えっ！指導部！



指導部員  
三代目 福太郎  
(加茂支部)

この度、安来節保存会指導部員という重責をお引き受けするにあたり、改めて安来節と正面から向き合い、考える機会を頂けたと感謝しております。正直なところ、お話を頂いた時は自分にはまだ早すぎるし、自信もなかったのとお断りしようと思っていました。

芸人だった祖父 初代出雲福太郎、父であり師匠 利夫の影響で、昭和五十三年 五歳の頃に、初めて資格審査を受けて以来数十年。この間ずっと続けてきたわけではありませんが、今尚、安来節の魅力と奥の深さに興味津々で、技術面はもちろん、歴史についても勉強したい事が沢山あります。

例えば、発声一つとってみても、歌詞の背景、風景が目の前にひろがるような、何とも言えない歌いまわし。忍び声を駆使し、喜怒哀楽を見事に表現する歌い方。いろんな方の唄、三味線の音色を聞いて、勉強中の自分が、他の方に指導なんて... という気持ちは、無くなる事は無いと思いますが、今後は、自分が興味を持った事、会員の皆さんが興味を持たれた事をまずは自分なりに解釈し、皆さんと一緒に楽しく勉強させて頂けたらと思っています。

学生の頃、父親に言われ、今でも大切にしている言葉

『実るほど頭を垂れる稲穂かな』

何時でも、どんな時でも謙虚な気持ちを持てることなく邁進しなさい。この言葉を忘れることなく、古き良きものは継承し、新しい風も吹かせていけるように自分らしく頑張ります！

最後になりましたが、これまでご指導ご鞭撻頂きました諸先生方、出雲俊之助先生を始めとした加茂支部の皆さん、改めて安来節の楽しさを教えてくれた生徒さん方、仲間たち、いつも応援、後押ししてくれる家族、保存会の皆様、本当にありがとうございます。今後ともよろしくお願いたします。

# 私と安来節

## 令和6年度 昇格者

### 唄准名人を 拜命して



唄准名人  
岩崎美智子  
(飯南支部)

令和六年安来節保存会より栄ある唄准名人に推挙いただきました。ご指導賜りました諸先生方に心より感謝申し上げます。

昭和、平成、令和と三つの年と付き合ってきた安来節。その間、継続出来たのは、故上代茂則先生のご指導のおかげでございます。「継続」という言葉を会員の皆さんと思い出し、みんなで力を合わせ一歩ずつ前進しました。

飯南支部を設立した時は、私以外はすべて無資格の会員で、「無謀な事だ」と注意を受けたもので。今、振り返ってみますと確かにそう思います。目的に向かってまっしぐらで、諸先生方の意見を聞いていたのでしょうか、記憶がないのです。安来節演芸館で師範審査会が行われた時は、嬉しさもあり、どきどきもあり、はつきりと覚えております。

長年にわたり、ご指導いただきました各支部、諸先生方に感謝しながら今年を迎えました。会員さんに支えられて大好きな安来節が唄えることを幸せに思っております。この度は、ありがとうございます。

### 私と安来節



唄 大師範  
中村節子  
(益田支部)

一月八日の唄い初め会で唄大師範に昇格させていただきました、ありがとうございます。

これは、私一人の力ではなく、教えていただいた先生をはじめ、一緒に練習、勉強させてもらった会員の皆さん、また家族の協力のおかげと深く感謝しております。私が安来節と出会ったのは、そういう子供時代の頃、夕方ラジオ

### 幼いころから 安来節



唄 大師範  
安達美由紀  
(本部道場)

この度は、新年の唄い初め会に於いて、唄 大師範位を頂き身の引き締まる想いです。

私が唄を始めたのは、四歳の頃だったと聞いています。私自身当時の記憶はなく、気づいたら安来節を唄っていました。私の祖父で

から流れてくる安来節の独特な音色に唄の好きだった、今は亡き父が口ずさんでいたのを思い出しました。その後、昭和五十五年頃で病院通いの連続でした。ある日、小中学校の同級生で安来節会員の先輩でもある友達が「あなた唄が好きだったよね？安来節の練習をしているから聞きたい？」と声掛けしてくれ、誘われるままについて行きました。ああ、子供の時に聞いたあの安来節だと思いつき、練習会場の唄を聞いて感動し、練習会場のたびにいくようになり、仲間に入れてもらい練習するようになりました。毎年の昇格審査では、二級から始まり、順調に毎年昇格することが出来たうえに、いつの間にか私の体調不良はどこかに逃げていき元気になっていきま

した。准師範から師範への審査には苦労しました。嫌いな唄が当たると「下がりや下がる程...」が二〜三回当たったと思います。師範になってからは、色々な大会に出たり、優勝大会では団体戦に出させてもらい、何回か入賞もさせてもらいました。私達の地域では、地区の文化祭や色々なイベントに招かれたり、また介護施設の慰問に出掛け、利用者さんに喜んでもらったりしましたが、私達の方が元気をもらって帰る事が多くありました。

あり師匠でもある、故 三代目安達順吉は生涯安来節一筋の人でした。そんな祖父の影響で私は安来節を唄うようになったのです。私が小さい頃は、近所の大人や子供達が実家にある道場に集まって、賑やかに稽古をしていました。歌声や三味線や鼓の音色が、小さい集落に響き渡っていました。毎晩のように耳で聞き覚え、楽しそうな雰囲気誘われ、幼い私も自然と稽古の場に参加するようになってきたと思います。年頃になり、稽古が億劫になることもありましたが、祖父に何度もおしりを叩かれました。安来節が身近にある、そんな環境で育った事は、と

でも特別でありがたい事なんだと大人になった今、身に染みて感じています。結婚を期に広島に住むことになり、以前のように活動もままありませんが、「継続は力なり」。これからは稽古を重ねて、地元の人を一人でも多くの人に届けて行きたいと思っています。祖父の教え、そして皆様の温かいご支援に感謝し、これからも精進していきます。





### 私が歩んできた 安来節



唄 大師範  
永見熊寿  
(益田支部)

私が安来節を始めたきっかけは、昭和五十年頃、地域の先輩からの誘いでした。生涯教育として、安来節に興味のある十数名でスタートし、当時の山村開発センターにて益田市より三名の先生を迎え、安来節の指導をしていただきました。

私の住んでいる所は、山口県北部の徳佐で、名勝しだけ桜やリンゴ栽培、お米の生産の盛んな自然豊かな地です。教室に通う全員が口に出して安来節を唄うのは初めてであり、慣れない発声や曲調に

### もっともっと 安来節



絃 大師範  
山本英三  
(広島東支部長)

本年の唄い初め会に於いて、絃大師範に昇格させて頂きました。身に余る光栄であり、諸先生・諸先輩・会員の皆様のご指導・ご鞭撻に深く感謝申し上げます。

安来節保存会に入会したのは、昭和六十年と記憶しております。唄・絃を同時に習い始めたのですが、この時、一般民謡を七年程習っており、民謡の三味線を四五年経験した頃でした。安来節の絃に馴染むのは比較的早かったのですが、先輩方から「撥が弱い、安来

苦戦し、唄になりません。ましてや正調安来節は三味線に合わせて唄わなくてはなりません。そんな日々の中、ひとつの通過点として、年に一度の昇格審査は大変負担に感じておりました。必死な努力の結果、昇格すれば良いのですが、一回、二回と失敗をすれば、一人辞め、二人辞めと教室の存続が出来なくなりました。残りの少ない人数で益田市の教室に通うようになり、今は亡き多数の大先生方の指導を受けることが出来るようになりました。そこで唄い方、踊り方、鼓の打ち方など安来節の基本を学び、壁にぶつかるともありませんでしたが、課題を乗り越え、諦めず、努力の甲斐もあって唄、踊、鼓の師範昇格をし、平成十年には「全国優勝大会」初出場で優勝を手に、夢のような思いで優勝旗を手にする事が出来ました。

平成十五年には、踊 大師範に昇格し、地域のイベントやお祭りの行事の舞台にて披露させて頂きました。中でも平成四年に「中節は撥を強く、キレと迫力を出せ」とよく言われました。逆に安来節から民謡に入った人は、撥が強すぎるらしいのですが、初めての昇格試験は二級でした。憧れの師範を頂いたのは平成五年、あれから早いもので三十年が過ぎました。師範昇格後は支部の先輩・同僚に三代目安達順吉先生を紹介頂き、私も仲間入りをさせて頂きました。

初めて、道場で先生の絃を聞いた時、その素晴らしく心地よい音色・リズムに驚きました。いつかこの音をとっと思いましたが、とても届くものではありませんでした。平成三十年に先生が他界されたのは痛恨の極みでした。昨年は指導部、唄担当として三ヶ所の師範研修会に行かせて頂きました。令和二年度に指導部を拝命致しましたが、コロナ禍にてその任を果たす事は叶わず、師範研修会のデビューは昨年の出雲地区でした。続いて益田・広島にも行かせて頂きました。初めての研修会で大変緊張

日邦交正常化二十周年記念には、中日友好団体のお招きを受け、中国北京で観客の皆様の前で「どじょうすくい踊り」を披露しました。この貴重な経験が、その後の安来節へのさらなる飛躍の一歩となりました。そして、中国人民大会堂にて国賓として晩餐会への招待を受け、万里の長城や上海を案内していただき、帰国しました。中国の皆様と交流し、親睦を深め合うことができ、大変嬉しかったです。

今年は、唄で大師範に昇格させて頂いた後、関係者の方々、益田支部の皆様、私を育てて下さった先生、友人の皆様により感謝を申し上げますとともに、責任の重さを痛感しております。

真摯な芸への向き合い、技量向上と自己表現の意欲等々、真に安来節に対する皆さんの熱量を感じ、昨年の師範研修会を終える事が出来ました。私自身も研鑽を重ねブラッシュアップ、お役目を果たしたいと思っております。どうぞ宜しくお願い致します。現在、広島東支部は四十二名(内少年の部四名)の会員が在籍しております。会員の皆さんの勧誘努力もあり、会員数を維持しておりますが、将来の会員減を危惧しております。会員減に歯止めを掛けるベストな解は持つておりませんが、昨年五月新型コロナウイルス感染症が5類に位置付けられ、地域のコミュニティ・老人ホーム等からの演芸のりクエストが増加傾向にあります。安来節を理解頂くチャンスと捉え、積極的にリクエストに答え、安来節のワクワク・ドキドキを伝え、会員獲得の一助になればと思っております。

### 子供の頃から 安来節



絃 大師範  
長谷川恭子  
(松江支部)

この度、松江支部のご推薦を賜り、安来節保存会より唄・銭太鼓に続き、絃 大師範に昇格させて頂きました。これもひとえに濱崎正人先生をはじめ、諸先生方のご指導と、松江支部の皆様のご支援あつてのことと、深く感謝いたします。

私は幼少期、祖母に地域の敬老会に連れられて行きました。その際、濱崎正人先生率いる「民謡きらら会」のステージで子供達が楽しそうに歌う安来節を見て、「私もここで歌いたい！」と祖母にねだつたのが安来節を始めるきっかけです。

その当時は、地元の子供達も沢

### 安来節との 出会い



絃 大師範  
松本記代子  
(本部道場)

この度、安来節保存会より絃大師範に昇格させて頂いた後、誠にありがとうございます。

私は小さい頃から時代劇に出てくる三味線に興味がありました。しかし大人になるまでそのきっかけはなく、趣味や特技のない学生時代を送っていました。

山安来節を習っていて、友達とお稽古道場に遊びに行っている感覚で楽しく習っていました。年に一度開催される安来節全国優勝大会は、子供ながらに毎年二日前から熱が出るほど緊張していましたが、普段この大会の会場でしか会えない友達と会えるのがとても楽しみだった記憶があります。自分の出番が終わると体育館を遊び場にして大騒ぎし先生方によく怒られました。

残念ながら、その当時一緒に遊んだ仲間達は、思春期になるとほとんど辞めてしまいました。私はどうして続けて来られたのだろうか？と、ふと思ふ事があります。先生方のサポートや家族の協力はもちろんですが、「安来節が好き！」「私もここで歌いたい！」この気持ちをずっと持ち続けていたからだと思います。

これから幼少期の気持ちを忘れず、安来節と向き合い、諸先輩方に支えられ導いてもらった私のように、未来を担う子供達をサポートできるよう、精進努力してまいります。

新刊 **安来節歳時記**  
B5判36ページ 1,500円(送料別)

安来節が誕生したころはどんな時代？  
なぜ唄うことが許されなかった？  
今の安来節の形になったのは？

出雲街道民謡交流会発行の完結編。  
既刊と合わせて読んでください。安来節の魅力、迫力など本当の安来節に触れることができます。

発行/ご注文 渡部孝夫 090-2809-1233

感動を呼ぶ 音色と響き 丹念な加工 調整 仕上げ

# 有仁ホ三味線

製造・販売/修理 三味線・鼈甲撥・尺八・太鼓

〒240-0022 神奈川県横浜市保土ヶ谷区西久保町197-1  
TEL 090(5782)7408 FAX 045(741)4796

HP <http://www.syamisen.com/>



# 私と鼓



鼓 大師範  
小谷 実  
(松江支部)

令和六年一月八日唄い初めに於いて、鼓 大師範に昇格させていただきました。本当にありがたうございました。昇格させていただき、諸先輩の皆様方の良き指導に恵まれたからこそ心から感謝致しています。昭和五十七年に師範に昇格させていただいてからも、故 竹内松子先生から「鼓は音と間はもちろ

んだけど、打ち方にも色気が無いとダメだよ」と良く言われたものです。どうしたら打ち方に色気を出すことが出来るのか悩んだ時期もありました。また、昭和六十一年、六十二年の全国優勝大会団体戦に出場させていただいた時には、鼓 名人の原文男さんから「あそこはもう少し打った方が良いよ」と何箇所かアドバイスを受けたことを今でも覚えています。また、現審査員で鼓 准名人の濱崎正人氏より「カンタ(あなた)は良い手をしているね」と良く言われています。このように多くの諸先輩の皆様方の指導に励まされ、今日に至ったと感謝しています。今後も技術向上に研鑽しながら微力ながら安来節の発展に努めて参りますので、何卒よろしくお願

# 安来節 銭太鼓との出合い



銭太鼓 大師範  
岩佐 光恵  
(本部道場)

この度、安来節保存会より銭太鼓 大師範に昇格させていただきました。

これも偏にご指導いただきました家元四代目渡部お系先生をはじめ、本部道場の先生、先輩方のご指導並びにご支援の賜と、感謝の気持ちと身の引き締まる思いで一杯でございます。

私が銭太鼓と出合ったのは、平成元年にふるさと創生事業で市内の各公民館で始まった安来節教室に参加したのが始まりだったと思います。

その後、平成十六年から銭太鼓の部が設立され、審査は経験年数等からそれぞれの階級を受審する

という自己申告制で行われ、准師範から始まり現在に至っております。その間、安来節演芸館をはじめ、夢ランドしらさぎでの演芸出演の機会をいただき、唄はもとよりですが銭太鼓の技術習得にも努めることができました。また最近では公民館教室や、小学校のふるさと学習に位置付けられた安来節において、銭太鼓や女踊りの指導を行うほか、高齢者サロンの慰問など安来節の普及活動にも携わること、自分自身の勉強にもなっていると思えます。銭太鼓、まずは体操感覚で気軽に、楽しく参加してもらい、そののち唄を覚えることで銭太鼓も覚えやすくなるのではないかと思います。安来節は難しいと思われて尻込みする人にも唄にも挑戦してもらえらるのではないのでしょうか。銭太鼓、唄を通して安来節保存会の会員が少しでも増えますよう、微力ではありますが努力させていただきます。今後とも一層のご指導ご鞭撻を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

# 会員の声コーナー

## 血と涙の真実



広野 正則  
(仁多支部)

痛ましい大禍とともに開けた令和六年の能登半島地震で亡くなられた方々の無念、生き残った人の悲嘆がそここから慟哭が聞こえる程に胸が痛み、仁多支部会員一同、心底より御見舞い申し上げます。

私たち仁多支部は、創立四十二年目を迎え、また今も継続中の仁多民謡教室は満四十五周年を迎えました。これも偏に発足にあたり、ご尽力いただいた加茂支部の唄名人 出雲俊之助先生のお力添えあつての事、ましてや当支部の絃准名人 富田とみお先生のお働きの賜物であります。また、平成八年より二十五年の長きにわたり銭太鼓の指導にご尽力いただいた宍道支部の唄 准名人 伊藤芳男先生のご助力があつたればこそこの紙面をお借りして深甚より謝意を表します。 私たちの仁多支部も高齢化が進み、併せて会員減少が以前に増して目立って参りました。盛況だった頃を懐かしみつつ焦燥感から断腸の思いです。併せて技術向上の怖さを身に染みて感じ入っています。この上は只々自信を持って恰好つけず、がむしゃらに会員募集に、深田支部長と一丸となつて出直す考えです。

## どじょうすくいの話



渡部 二郎  
(松江支部)

どじょうすくい男踊りの発祥説(某放送局の番組から) 昔、松江の浜佐陀という村でどじょうがたくさん取れたげな。ある日、松江藩の殿様が、この地に狩りに来た時、村人はこぞつてもてなしをした。村人の中に働き者の「ごんべい」という人がいて、何とて無いけど畑で取れた大根を煮て出したところ、殿様はこれを食べて「とてもうまかった」と城に帰り、後日「あのうまかった大根がまた食べたい」との事で、ごんべいさんは、大根を煮て、城に上り、一番うまいものを食べさせたいとの思いから、殿様よりも先に試食したところ、家来が「殿様よりも先に食べるとは無礼なやつ」と手打ちにした。ところが手元が狂い、ごんべいさんは、鼻を削が

ただだけで命拾いした。でも、ごんべいさんは、鼻のない顔では恥ずかしくて外へ出れないと家に籠り働かなくなり、ごんべいの奥さんが「この辺はどじょうが多く取れるから、朝早く人が出ないうちに取ってきなさい。それを私が町に売りに出てあげるから」と言われ、ごんべいさんは、鼻に一文銭をつけ、手ぬぐいで頬かむりをして、早朝からどじょうを取り、それを奥さんが町で売ったところ、



たいそう儲かりお金持ちになったげな。村の人は、ごんべいさんを「鼻そげごんべいさん」「お金持ちごんべいさん」と言っただげな。 どじょうすくい踊りの終わりに、手を頭の上にかざして舞台袖に入る動作は、ごんべいさんがどじょうを取っている内に日が昇り、朝日が眩しいのと人が出てくる時刻だから早く帰ろうとする表現のなごりではなからうか。それと宴会の席で安来節に合わせてどじょうすくい踊りをするのは、ごんべいさんがどじょうを取って売り、お金持ちになったのにあやかつての事かもしれない。

# 私と安来節



早坂 良子  
(関東支部)

予備知識もなく、ただの稽古事として何気なく入会した安来節どじょうすくい教室。入会して驚いた事は、年に一度の資格審査がある事とその審査で二級以上になり、予選会を通過すると安来節全国優勝大会に出場できる事を知りました。六十を過ぎて資格を貰える稽古事に出合えた事と無資格から師範まで同じ衣装で同じ踊りをする事に「目から鱗が落ちる」といった言葉に値するほどの驚きでいっぱいでした。 審査では、踊りで飛び級する事も無く三級・二級と地道に一歩ずつ進みました。二級になり、優勝大会に出場できる事と審査員の先生方に稽古の成果を見てもらえる事は至福の喜びと感じていました。大会会場のアルテピアの大きな舞台で二級・踊で優勝旗を手にした時、次は更なる稽古を積んで...と思っていました。新型コロナウイルスにより三年、大会が中止に！その間、審査はビデオになり一級・初段・二段まで昇格しました。 昨年、久しぶりの優勝大会。いつも指導してくださっている先生が「今を大事にしつかり稽古した先に准師範、師範が見えてくるよ」と言われた言葉が、二段・踊でも優勝できた事に繋がっていると思っ

ています。この言葉を忘れず、これからも稽古の成果を発揮できるように頑張っていきます。 教室の先輩には「早坂さん、どじょうすくい踊りにハマリしているね」と言ってくれた言葉が心に残りました。今は、銭太鼓と唄も稽古して、この二つでも同じように感じてもらえるように努力していきます。 コロナも五類に移行し、久しぶりの優勝大会が無事に終えた事は、本当に嬉しく感じる事が出来ました。



安来節全国  
4年ぶり

事務局からのお知らせ

令和 6 年「唄い初め会」支部競演成績

安来市長賞	本 部 道 場
安来市議会議長賞	飯 南 支 部
安来市観光協会会長賞	松 江 支 部
安来商工会議所会頭賞	広 島 支 部
B S S 山陰放送賞	益 田 支 部
足立美術館賞	神 門 支 部
家 納 喜 賞	加 茂 支 部
スポーツショップまつもと賞	宮 島 支 部

「令和 6 年能登半島地震」の義援金を寄付しました

このたびの「令和 6 年能登半島地震」により被災された皆様方に、心よりお見舞い申し上げます。

当会は、3月13日、「令和 6 年能登半島地震」で被災された皆様の支援および被災地の復旧・復興に役立てていただくため、会員の皆様から募った義援金 475,705 円を山陰中央新報社会福祉事業団を通じて、日本赤十字社に寄付させていただきました。

アンケートご協力のお願い

安来節保存会では、会員確保に役立てるため、比治山大学名誉教授の石田信夫氏のご協力のもと、以下のアンケート調査を実施いたします。

つきましては、会員の皆様にはアンケート調査にご協力いただき、FAX・郵送・メールにて令和 6 年 6 月末までに下記の回答先（安来節保存会）にご回答をお願いいたします。

なお、安来節保存会ホームページの「申請書ダウンロード」ページからアンケート用紙をダウンロードすることも出来ます。

回答先▶ 安来節保存会宛

FAX : 0854-28-9393

Mail : admin@y-hozon.com

HP : https://y-hozon.com/

切り取り線

安来節アンケートのお願い (会員の方へ)

比治山大学名誉教授 石田信夫

会員を増やすためにどうすればいいかを考えるために、みなさんの声をお聞かせください。まとめた結果を、今年の大師範以上研修会でお話しします。

支部：

【階 級】 唄： 絃： 鼓： 踊： 錢太鼓：

【活動歴】 入会から満： 年

【入ったきっかけはなんですか】

1：誘われて

→ 誰から？ 1：知人 2：家族 3：その他 ( )

2：興味があつて自分から

→ どんな点に興味？

1：楽しそう 2：難しそう 3：地元の歌だから 4：芸として役立つ

5：その他 ( )

【やってみてどんなところに魅力を感じますか】 (複数回答可)

1：歌っていて気持ちがいい

2：難しくて挑戦のし甲斐がある

3：上達すると階級が上がリ、達成感がある

4：地元の歌を歌えることで、プライドを感じる

5：かくし芸・宴会芸として披露することができる

6：同じ趣味の友人・仲間ができる

7：家族で楽しめる

8：その他 ( )

【これからも会員を続けますか】

1：続ける 2：やめることを考えている 3：一概に言えない

→ その理由は？

ご協力ありがとうございました。

最後に、会に対しての提言や注文したいこと、あるいは気づきなど自由にお書きください。

差し支えなければお名前を、名前を出しづらい場合は連絡できる電話番号、メールのアドレスを教えてください。補足して聞きたいことがありますら、ご連絡します。

お名前：

連絡先：

\*私(石田)への連絡は 090-6415-4592、あるいはメール shinn2181952@gmail.com に  
お願いいたします。